



一般社団法人

全国高等学校PTA連合会

会報

No 86

一般社団法人全国高等学校PTA連合会

(連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
発行人 牧田和樹 URL <http://www.zenkouren.org/> eメール info@zenkouren.org

人間社会をよりよく生きる

全国高等学校PTA連合会会長
牧田和樹

英国THEの世界大学ランキングによると、わが国トップといわれる東京大学の順位は安定しません。しかしながら、経済力をはじめ国際社会におけるわが国そのものの評価は常にトップクラスです。この乖離の原因について、勉強しなくても卒業できる大学側の出口管理にあるとの指摘もありますが、わが国の教育制度、つまり従来の複線型から敗戦により単線型に転換させられた歪みに原因があるのではないのでしょうか。ランキング上位の単線型国では、高等教育機関の成果として全人教育を目指し、入試は知識だけでなくスポーツ、芸術、社会貢献など多様な活動について高いレベルを要求しています。それに対し、わが国入試の根幹は複線型時代

を踏襲した知識偏重です。しかしながらわが国では、社会全体に組み込まれている世界に類をみない高い道徳倫理観が全人教育の舞台となり、この歪みを辛うじて解消しているのだと考えます。二千五百年以上も前に編纂された四書五經の教えを、一度も排除することなく今日まで道徳倫理の拠りにしていることは、何よりの証左ではないでしょうか。

このような教育環境において、最近話題のAI(人工知能)などの技術革新は、確実に子供たちの将来に影響を与えると予想されます。AIを道具として使いこなすか、使われるか、この迫りくる現実を正しく受け止めるべく、適切な準備をすることが求められます。そのためには逆説的な発想で

すが、AIにできないことを見極めることが肝要です。AIの正体は、ストックしたビッグデータの統計解析であり、ある意味、知識だけでは処理できないことにヒントがあるのではないのでしょうか。人はすべて、自身と他者とのあいだに「間」が存在する人間社会で生きていくため、関係構築にはこの間が重要になります。加えて、人には心(意識、感覚、欲求、感情、情緒など)があり、介入することで間をより複雑にしています。コミュニケーションなどは間に左右される典型で、他者の心を読み違えると同じ言葉が発しても全く正反対の結果を導いてしまします。つまり、人間社会においてよりよく生きるためには、自身と他者との関係を如何に構築するか、極言すれば、他者の心を如何に慮るか、に尽きるのではないのでしょうか。そして、ここにAIでは解決不能な領域が存在するのです。したがって子供たちには、知識だけでなく情動的な能力を兼ね備えた、明確には定義しづらいのですが、仁、愛、慈悲にもとづいた、論語にいう「己の欲せざる所は人に施すこと勿かれ」を実践できる力が、求められるのだと考えます。私見ですが、他者の心を慮るには自身の人間性を高める以外にないと考えます。他を利用することは利己を抑えることと表裏一体であり、自身を変えることはできても、他者を変えることはできないのです。

↓次頁へ

今号の主な内容

会長就任挨拶	1～2頁	近畿地区／中国・四国地区／九州地区
文科省訪問	2頁	29年度 定時総会報告／自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動について 14頁
全国大会 静岡大会	2～7頁	平成29年度一般社団法人全国高等学校PTA連合会役員・委員名簿／組織概要・会員概況 15頁
分科会報告	4～7頁	賠償責任補償制度のお知らせ 16頁
全国大会を振り返って	7～8頁	
地区大会報告	9～13頁	
北海道地区／東北地区／関東地区／東京地区 北信越地区／東海地区／		

さて、当会は昭和二十七年に十道県連合会でスタートしてから六十五年が過ぎ、現在は五十の都道府県市連合会と共に歩んでいます。その間、時代の変化に応じて様々な活動を展開し、これからもその姿勢は変わりません。現状において当会の役割は大きく分けて二つあると考えます。一つは各連合会ひいては加盟校との連絡調整を、もう一つは交流推進を担うことです。

まず連絡調整の最たるものは、全国展開している組織と受発信した情報などを各連合会へ繋ぐことであり、会長・事務局長研修会などがその役を果たしています。また、各連合会や加盟校の意向を取りまとめるため三年前に調査統計システムを導入しましたが、使い勝手が悪く一度も稼働しなかったたので、利便性が高くコストのかからない新たな手法に移行したいと考えます。これが整えば約四千校の現実を文部科学省などへ発信できると確信します。さらに、賠償責任補償制度も掛金の

値上げにより過渡期を迎えています。これまで以上にスケールメリットを活かし、子供たちを守ることはもとより、加入促進と各連合会への手数料還元とをセットにして充実を図りたいと考えます。

つぎに交流推進について、当会大会いわゆる全国大会は、加盟校が直接参加できる一大イベントです。参加者にとつてより有意義なものとなるよう、時代変化に的確に対応した今日の課題について、情報発信することができないかを模索したいと考えます。併せて、一万人規模の会場設営など主管への過度の負担を軽減する形態を模索したいと考えます。

さらに、当会も一般社団法人となり六年が過ぎ、当時は気づかなかった制度上の不具合もいくつか顕在化し、運営に支障が生じるようになりました。組織は完成した時から陳腐化するもので、時代に則して対応することが必須です。このようなことから、不具合を修正し各連合会と共に有意義な活動が展開できるよう、定款や規程の改定に取り組みたいと考えます。

これまで経営する会社はもとより、いくつかの組織運営に携わっています。新たな役職を拝命するたびに頭に浮かぶのが、頼まれごととは期待以上のことができるかどうかを試されているのだ、という、「頼まれごととは試されごと」のフレーズです。経験上、経営や組

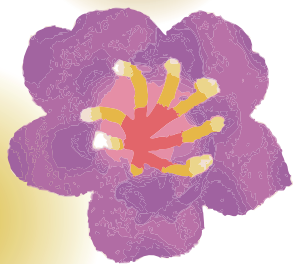
織運営の本質は人を動かすことだと認識しています。人間社会において独りでは何事も成し遂げることはできず、必ず他者との関係構築が必要不可欠で、ここに重要な意義があると確信します。これからどんな方々と出会い、どんな関係が築けるのか、そして、その過程でどれだけ期待以上のことが当会にできるのか、みなさんと共に楽しみながら会長の任を担いたいと考えます。

これまで経営する会社はもとより、いくつかの組織運営に携わっています。新たな役職を拝命するたびに頭に浮かぶのが、頼まれごととは期待以上のことができるかどうかを試されているのだ、という、「頼まれごととは試されごと」のフレーズです。経験上、経営や組

織運営の本質は人を動かすことだと認識しています。人間社会において独りでは何事も成し遂げることはできず、必ず他者との関係構築が必要不可欠で、ここに重要な意義があると確信します。これからどんな方々と出会い、どんな関係が築けるのか、そして、その過程でどれだけ期待以上のことが当会にできるのか、みなさんと共に楽しみながら会長の任を担いたいと考えます。

林 芳正文部科学大臣を表敬訪問

去る10月5日、牧田会長は泉副会長、内田常務理事と共に林芳正文部科学大臣を表敬訪問しました。お忙しい中、第67回全国大会静岡大会にご臨席いただいた御礼を申し上げますと、大臣からは「大変盛大な大会でしたね。今後文部科学省は全国高P連の活動を応援していきます」と激励いただきました。



全国大会 静岡大会

「有徳の人」づくり

「未来のために行動する『二人』を育てよう」



第67回全国高等学校PTA連合会大会静岡大会

は「有徳の人」づくりをテーマに8月24日（木）25日（金）の2日間、開催されました。メイン会場（全体会場）の小笠山総合運動公園エコパのエコパアリーナには、強い日差しの中、9388名が参加し、熱気あふれる大会となりました。

開会式では林芳正文部科学大臣、川勝平太静岡県知事から御祝辞をいただきました。



会場も清水、静岡、袋井、浜松と広範囲に渡り、移動が心配されましたが、静岡県連の周到な準備とスムーズな運営により、どの会場も予定通り進行し、活況を呈しました。

分科会報告

全国高P連研究発表

「ネットトラブルの予防と対策」



趣旨 身の回りで起こりうるネットトラブルはどのようなものがあるか？それを予防する対策とは？万が一にでもトラブルに遭ってしまった場合の対策とは

二日目も分科会での充実ぶりを現すように、再びエコパに多くの会員が参集し、記念講演、分科会報告、閉会式と今大会を振り返り、締めくくりました。

※大会の詳細は全国高P連ホームページの大会速報、および全国大会静岡大会報告書（2月刊行予定）をご覧ください。



第一部は基調講演、第二部はパネルディスカッションを行いました。

株式会社KDDI 総合研究所教育・医療ICTグループ 研究主査 斉藤長行氏の基調講演で「分かっているけどやめられないこと」がネットの問題だという話題が出ました。人は感情で動くことが多く、人の行動のうち、

95%が無意識の下の行動であると言われています。では、「青少年がインターネットを安全に安心に活用するために」どうしたら良いのでしょうか？

大切なことは二つ。一つは、他律（気づき）自立（考える）。そしてもう一方は、セルフコントロール（自制心）の強さです。保護者が子どもに対して、スマホ等のやり過ぎを注意する場合、ただ要求を押し付けるのではなく、どのようにすれば止めることができるのか子ども自身が気付くことのできる働きかけが重要であるとのことでした。

パネルディスカッションでは、静岡県立磐田南高等学校PTA会長の太田 好洋氏からは、子どもの友人に、SNSに許可無く写真を載せてトラブルに巻き込まれてしまったというエピソードの紹介がありました。この経験から、個人情報取り扱い扱いにはご自身も子どもも十分に注意しているとありました。アダルトサイト等、特に子どもに気をつけて欲しい事は、子どもに直接伝えるのではなく、トイレにメッセージを貼って文字を通して伝えていくという実践報告も聞くことができました。

静岡市立清水桜が丘高等学校3年生の先生弾（せんじょうはずむ）さんはオンラインゲームにハマっていた過去がある、このことから報告を始めました。やっと思いでゲームを止めることができたが、代わりに今はYouTubeにハマりつつあることも明かしてくれました。一度動画を見てしまうと、次から次へと見なくなってしまう。YouTubeが動画を見ることを止めさせてくれないと感じながら、止めることのできない自分がいることに悩んでいると言いました。今回の分科会を振り返り、大人と子ども、あるいは子ども同士がスマホに関するお互いの意見を交換できる場は、有意義だと感じると話していました。

静岡市立清水桜が丘高等学校教諭 柳本直輝氏は、子ども同士のコミュニケーションのトラブルをすべて把握することは

出来ない日々感じているといえます。インターネット依存症となつてしまい、インターネットに関する以外に興味関心を持ってなくなつてしまふ、このことが大きな問題ではないだろうかと呼びかけていました。大人が模範を示しながらも、子どもが自分自身で考え、判断し、行動するこ

とが最も重要であると主張されていました。また、総務省総合通信基盤局電気通信事業消費者行政第一課課長 徳光歩氏からは、インターネットの光の部分、影の部分についての考えを聞くことができました。フィルターリングの対象となるのはインターネット全体の43%であり、子

どもたちにとって危険だと判断されているウェブサイトをこんなにも多いと言いました。このことから、子どもたちの使用するインターネット環境には、是非、フィルターリングをかけてほしいという強い主張がありました。また、保護者は、子どもたちに対してインターネットの利用状況や

トラブルの事例を教えることで注意を促し、その上で、安心ネットワークの情報を参考にしながら家庭のスマホルールを作ってもらいたいとのことでした。

最後に、コーディネーターの静岡大学 教育学部准教授 塩田真吾氏はまとめとして二点挙げていました。一点目は、教

育。これは、子どもたちにインターネットの使い方について振り返りをさせ、それに対して大人が意見をすることを意味します。その際には、大人は子どもに対して正しい情報をきちんと教えることが求められます。二点目は、冷静になる時間を作る。これは、子どもたちは無意識の下でクリッ

クボタンを押している場面が多いため、そのような場合における冷静さが必要であることを意味します。子どもたちの中に冒険心もあるのだから、今一度立ち止まり、冷静になる時間を作れるような環境を整えていくことが大切であると締めくくりました。

(仲西春雅理事・沖縄県)

第1分科会

「学校教育とPTA」～「有徳の人」を育てる学びの場の充実～

青森、山梨、石川、島根の4県の学校より、各地区の実情や特徴を生かした活動発表がありました。「学びの場」という考え方に對し、対象が誰なのか?という視点において、大きく二つに分かれました。

一つ目は、「PTAは生涯学習の始まり」「P

TAのOB・OG会をつくっていく」「地域の活性化を高める社会活動としてPTAは有効な活動である」という考え方の発表内容があり、これは私たち保護者自身が、学び成長の対象であるという視点です。

二つ目は、私たち保護者の活動を通じて、子どもたちを「有徳な人」に育てるという視点です。ある学校では、フードバンク活動を行っており、その活動を保護者が子どもたちと一緒にやることで、子どもたち自身が、主体的に活動の意義や大切さを深く考え、理解するようになり、このPTA活動が知らないうちに

生徒たちを発展的な方向に進ませさせていたというものでした。また、「PTA活動が子どもたちにとどくに映るかを考えると、あくまで活動は楽しく元気に行うことが一番大切」「親の生き生きした姿は必ず子どもたちに良い影響を与える」このような発言もありました。

この二つの視点のほかに「一方通行にならない活動を意識し、アンケー

トをとることににより、きちんと現状を確認し、さらに関心をもってもらえるように話し合い工夫をしている」「生徒の定数削減により、先生・生徒も減り、マンパワーが不足、そのためPTA活動は学校の魅力を高める活動を中心としている」などの発表がありました。

まとめますと、私たち保護者自身が積極的に学校や子どもたちに関わ

り、子どもと共に学び成長することこそが、子どもたちに良い影響を与えていることを再認識しました。

発表後の質疑応答も大変盛り上がり、とても充実した分科会になりました。

(金田淳理事・栃木県)

第2分科会

「進路指導とPTA」～『有徳の人』を育てる希望進路の実現～

第2分科会は、清水文化会館において4つの高校から研究発表がなされ、その後質疑、そして最後に静岡大学の先生方から助言を頂きました。

SSH指定校である山形県立鶴岡南高校からは、各分野で活躍している方を講師に招いて生徒と保護者を対象に講演会を行っていること等が発

表されました。岐阜県立中津高校からは、保護者のための進路サポート勉強会を年に8回から9回開催し、各回とも100名以上が参加

していること等が発表されました。

五代友厚公が創立した大阪商業講習所を前身とする大阪市立大阪ビジネスフロンティア高校からは、保護者と生徒が一緒に参加する大学キャンパスバスツアーを実施して

いること、知名度を上げる必要性を感じていること等が発表されました。

宮崎県立高鍋高校からは、社会人を講師に招き、職業選択の理由、働く喜び・厳しさ等を話して頂く「高鍋高校ワクワク講座」の紹介、PTA視察

研修において県内の優良企業を見学したこと等が発表されました。

4校からの研究発表の後、会場から、質問が出され、また、学校の知名度を上げるためにはメディアの力をお借りすると良いとの意見も出され

ました。
助言者の山崎保寿教授からは、有徳の人の3要素の紹介がありました。内容は大会要項の20頁に載っております。1つ目が個人として自立した人、2つ目が人との関わり合いを大切にする人、3つ目がより良い社会作

りに参画し、行動する人です。その上で、PTAが行う挨拶運動は、人との関わり合いを大切にすることという有徳の人の2つ目の要素につながるものであること、文化祭においてPTAがお店を出すことや生徒のボランティア活動に保護者も参加す

ることは、より良い社会作りに参画するという3つ目の要素につながるものであることの指摘がありました。私たちが日頃行っているPTA活動は、有徳の人を育てることにつながる活動だという気付きを得ることができました。

また、助言者の宇賀田栄次准教授からは、大学キャンパスツアーに親子で参加するようなとき、振り返りの時間を設け、自分以外の参加者の気付きを共有することの大切さが指摘されました。また、社会人を講師として招く講座の際

には事前学習と事後学習、生徒同士で話し合うことも有用である等の提案もありました。
他にもたくさんのご報告がなされました。発表者の皆さん、助言者の先生方の発言はどれも時間内にまとめられ、予

定していたスケジュールどおりに終了しました。内容とともに大会運営も素晴らしい第2分科会でありました。
(渡辺正和理事・岩手県)

第3分科会

「生徒指導とPTA」～「有徳の人」を育てる「命を守る教育」の推進～

「命を守る教育」の推進をテーマに特色ある4校の研究発表及び情報交換を行いました。

・千葉県立君津青葉高等学校

「高校生の健全育成を進めるための活動」をテーマに保護者が学校に

来校する機会を増やす取り組みを行い、親子の対話のきっかけづくりになったとの発表がありました。

挨拶指導、交通安全指導などPTA活動の活性化につなげた発表がありました。PTA活動については「あせらず、くらべず、あきらめず」の言葉が印象に残りました。

学校独自の自転車運転免許制度に保護者も積極的に参加することで、子どもたちの自覚と責任を意欲させることに効果をあげているとの報告がありました。「ぴたりぎゅつと春PTA活動」のテーマも印象に残りました。

最後に助言者から、「各校ともPとTで子どもの

教育を行っており、自律への一助となっている。安心安全を与える環境づくりにはまず学校が主体となるが、親が加わり親の力を見せることで深まります。貴重な実践事例であり心温まる発表でした」との講評をいただきました。
(石坂兼人理事・富山県)

第4分科会

「家庭教育とPTA」～「有徳の人」を育てる家庭教育の充実～

4校より発表していただきました。

・北海道室蘭清水丘高等学校より

子どもたちを見守る大きな輪と題し、親が楽しんでPTA活動に関わり頑張っている子どもたちもその姿を見て頑張れる、また家族においても、たわいのない会話からコ

ミュニケーションが生まれ、日常的生活がいかに愉しく大切であるかという発表がありました。

場として関心の高いテーマを募り、生徒たちが入り込みやすいポスターで告知をし、先生や保護者とのディスカッションをすることにより、疑問をもつ力、考える力、解決する力などにより子どもたちの自主性を養えるという発表がありました。

・兵庫県立尼崎稲園高等学校より
幼稚園児から大人まで幅広く地域住民と清掃活動、お祭りなどに協力し、共同作業を通じ人権教育を養い、その過程において子どもたちが個々に将来の夢へと導かれていき、また保護者が学校への来場にあたり、メッセージカードへ自由に書き込み掲示することにより、子どもたちの思いが

伝わり距離感も近くなったとの発表がありました。

・香川県立高瀬高等学校より
挨拶、掃除、服装、時間厳守、言葉使い、そして何より笑顔を決定的にすることにより子どもたちへの自己肯定感や自信を引き出し、良き相乗効果が見受けられ、また短冊に三行メッセージを書き込み掲示することにより



大切に、親たちが自分たちを応援してくれているということが伝わり、人間力の向上にもつながった。

ていくとの発表でした。そして助言者漁田俊子先生、石田純夫先生より、思春期の子どもたちは親

をウザイと思うが最終的に親の背中を見せることにより家庭教育、人間力の向上につながり、親が

元気であれば子どもも元気でいられる。家庭・地域において、子どもたちに安心感を保障してやる

こと、子どもたちのペーシングに合わせ、保護者・大人として見守ってやる大切さ、何よりも子どもた

ちが主語・主役としてあげることが大切であると、助言いただきました。(細瀬修理理事・三重県)

特別第1分科会

「有徳の人を育てる

防災・減災教育の推進

「防災・減災能力の醸成」

静岡大会にふさわしいテーマで、800名を超える参加者を迎え、行われました。

基調講演からは3点、1つ目。最近使われるようになった「減災」という表現は、「これくらいやっていたら、ある程度防げるだろう」という甘えにつながる。原点到ち返り、あくまで被害ゼロの「防災」を目指すべき。2つ目。同様に最近よ

く使われる「想定外」という言葉。こちらは、「想像力の欠如」が原因。まれにしか遭遇しない災害を、いかに具体的に自分自身でイメージできるかが、防災対策の力ギとなる。

3つ目。「自助、共助、公助」を並列に表現することが多いが、まずは「自助」「自らの命は自ら守る。

次に「共助」地域での助け合い、そして最後にそれを行政がしっかり支える「公助」。行政に頼るだけでなく、このような意識を持つべき。などのお話が心に残りました。

パネルディスカッションでは、「災害時に、主体的に行動できる人材育成が必要。高校生には、自分を守り、かつ地域を守るリーダーになって欲しい。」と期待する声が多くなりました。

静岡大学防災総合センター長、岩田教授の基調講演のあと、学校、保護者、地域の代表、そして高校生をパネリストに迎え、それぞれの立場で、防災についてお話した。

きました。基調講演からは3点、1つ目。最近使われるようになった「減災」という表現は、「これくらいやっていたら、ある程度防げるだろう」という甘えにつながる。原点到ち返り、あくまで被害ゼロの「防災」を目指すべき。2つ目。同様に最近よ

く使われる「想定外」という言葉。こちらは、「想像力の欠如」が原因。まれにしか遭遇しない災害を、いかに具体的に自分自身でイメージできるかが、防災対策の力ギとなる。

3つ目。「自助、共助、公助」を並列に表現することが多いが、まずは「自助」「自らの命は自ら守る。

次に「共助」地域での助け合い、そして最後にそれを行政がしっかり支える「公助」。行政に頼るだけでなく、このような意識を持つべき。などのお話が心に残りました。

パネルディスカッションでは、「災害時に、主体的に行動できる人材育成が必要。高校生には、自分を守り、かつ地域を守るリーダーになって欲しい。」と期待する声が多くなりました。

特別第2分科会

「有徳の人を育てるグローバル教育とコミュニケーション能力の育成

この度の分科会は2部構成となっており、前半の松香先生による基調講演では現在の日本の外に向けたグローバル化(国際貢献活動)や、内に向けたグローバル化(多文化共生)にふれ、JICAなど多くの予算をかけた国際貢献活動も重要であるが、民間で行う様々な活動の大切さを説明されました。

現在社会全体のグローバル化に教育が追い付いてなく二〇二〇年から変更される大学入試制度において英語試験も対象となっており、入試制度が変われば高校教育が変わり、大学と企業の連携が行われるようになれば、高校・大学の教育が変わるということも気付かされました。

また、今の教育現場の状況についてもふれられ、小学校の英語教育は上手

くいつているが、中・高校ではこれまでの入試型英語教育にコミュニケーション英語を乗っけているので上手くはいかないことも説明されました。

後半は松香先生をコーディネーターとし、保護者代表の原さん、日系ブラジル人で浜松市在住の現役大学生田中さんと地元高校生2名、横田君と大高さんでのパネルディスカッションを行いました。

冒頭での自己紹介では会場全員が互いに5行の自己紹介を行いました。5行の自己紹介とは「引つ込み思案」な日本人も簡単に行えるもので、①Hello②My name is Tadashi Itaya③I like riding a bike④I like running too⑤Thank youとなり、私も登壇し皆様の前で英語で自己紹介させていただきました。



パネルディスカッションでは日系ブラジル人として育った田中君の苦労したことや、現在行っているグローバルとローカ

ルを合わせたグローバル活動の紹介、今後は語学力を活かした仕事につきたいとの目標も語っていただきました。

また、袴田君は将来、医師を目指し、今努力しているが、一度は海外留学し語学力を身につけ、外国人患者さんと接する際は母国語で対応してあげたいと強い思いを語られました。

大高さんは大きな目標はないけれ

にはちよつとずつでいいから海外のいろいろな体験をしてほしいし、そのシステムを作っていくのは大人の責任であると話

されました。

最後に松香先生からは外国語ができるからそれに対応した仕事を選ぶのではなく、まずは日本人

として日本の仕事がいかにりとできるように学び、これからますます進む人口減少社会において「小さくても輝ける国」

を創ってほしいと締められました。

当初、「グローバル教育とコミュニケーション能力の育成」というタイ

トルから壮大な話が主になるのかと思っておりましたが、至ってローカルな「今自分ができるグローバル活動は何か」ま

た、「コミュニケーションは自分の考え方次第であること」に気付かされた会でありました。
(板谷正理事・山口県)

全国大会を振り返って

静岡大会を終えて

静岡大会実行委員長 杉浦政紀

全国各地から、大変多くの方にご参加をいただき、心より感謝するとともに感激しています。静岡大会はいかがだったでしょうか。

な暑さだということをお伝えしておきます。

静岡大会は、全参加者が一堂に会する場の提供にこだわりました。エコパアリーナが県下で唯一の会場でした。全ての参加者の方に、大会を表彰を講演を生で感じていただきたい。また、全国各地の方々との交流の機会も増えます。さらに、自然に囲まれた素晴らしい環境も備えています。ただ、宿泊だけが問題でしたので、静岡・浜松の2つの政令指定都市で分科会を開催させていただき

ただいた皆様に、そして大会のために列車を増便していただいたJR様にも感謝申し上げます。講演会も静岡県出身者にこだわりました。静岡は、ここ数年、歴史の話題で盛り上がりつつあります。家康公400年祭、大河ドラマの井伊直虎、韮山反射炉の世界文化遺産登録などです。基調講演の講師をお務めいただいた小和田先生は、お願いに伺った時点から、PTAの大会だから歴史の中の教育の話しようとか大会趣旨を積極的に取り入れていただきました。また、2日目の記念講演は地元テレビ局でも番組を持ち、地元愛を前面に出される筈さんらしい

お話をお願いしました。トークショー形式にしたことで、より楽しい時間になったと思います。

私事になりますが、全国大会には平成19年の埼玉大会から参加させていただいています。最初の大会の時は、まさか実行委員長をするとは夢にも思わず、単位PTAの副会長という大変気楽な立場での参加でした。どの大会も、会場にしてもステージ上の演出にしても、全国の大会はすごいと思わせるものばかりでした。静岡開催が決まり、開催側の立場の目

私たちに感動を与えてくれました。こんな活動がPTAの原点ではないかなと。静岡大会をスタートする時点で静岡のメンバーの前で話した最初の言葉は、『オール静岡でもてなしの大会をつくらう』でした。ちょうど、東京オリンピック誘致の際に滝川クリステルさんが使った「おもてなし」を使わせていただきました。東西に広い静岡県の大会を行う中心は限られた場所になります。しかし、全国の皆さんをお迎えするのは県内すべての地区のPTA会員で迎えたいという表れでもあります。お茶力ラーのユニフォームを着た当日の出陣挨拶も『参加の方に気持ちよく研修していただき、気持ちよく交流していただくために笑顔

結びに、静岡大会実行委員会は、講師の方々のお話、全国のすばらしい活動事例や取組などの紹介の場を提供したにすぎません。閉会式のお礼の言葉でも述べたとおり、大会の成果は研修に参加するところで終わらず、地元、各学校に持ち帰っていただき、講演の話題、全国の取組事例、会員間の情報交換が伝えられて、子どもたちのために意義あるものになって初めて達成できるものと考えています。是非、皆様により、静岡大会で得たものをご活用いただければ幸いです。ありがとうございました。

開催前、台風やゲリラ豪雨から北朝鮮のミサイルまで、ニュースを確認しながら、不安な日々を送りました。それらの不安は杞憂に終わったものの、予想を超える暑さの大会となりました。北海道の方だけでなく、沖縄の方からも「暑いですね」との言葉をいただきました。静岡は日照時間からすれば、国内有数の長さを誇っているのですが、海に近いエリアの今回の暑さは、静岡としても稀

な暑さだということをお伝えしておきます。静岡大会は、全参加者が一堂に会する場の提供にこだわりました。エコパアリーナが県下で唯一の会場でした。全ての参加者の方に、大会を表彰を講演を生で感じていただきたい。また、全国各地の方々との交流の機会も増えます。さらに、自然に囲まれた素晴らしい環境も備えています。ただ、宿泊だけが問題でしたので、静岡・浜松の2つの政令指定都市で分科会を開催させていただき

ただいた皆様に、そして大会のために列車を増便していただいたJR様にも感謝申し上げます。講演会も静岡県出身者にこだわりました。静岡は、ここ数年、歴史の話題で盛り上がりつつあります。家康公400年祭、大河ドラマの井伊直虎、韮山反射炉の世界文化遺産登録などです。基調講演の講師をお務めいただいた小和田先生は、お願いに伺った時点から、PTAの大会だから歴史の中の教育の話しようとか大会趣旨を積極的に取り入れていただきました。また、2日目の記念講演は地元テレビ局でも番組を持ち、地元愛を前面に出される筈さんらしい

私事になりますが、全国大会には平成19年の埼玉大会から参加させていただいています。最初の大会の時は、まさか実行委員長をするとは夢にも思わず、単位PTAの副会長という大変気楽な立場での参加でした。どの大会も、会場にしてもステージ上の演出にしても、全国の大会はすごいと思わせるものばかりでした。静岡開催が決まり、開催側の立場の目

私たちに感動を与えてくれました。こんな活動がPTAの原点ではないかなと。静岡大会をスタートする時点で静岡のメンバーの前で話した最初の言葉は、『オール静岡でもてなしの大会をつくらう』でした。ちょうど、東京オリンピック誘致の際に滝川クリステルさんが使った「おもてなし」を使わせていただきました。東西に広い静岡県の大会を行う中心は限られた場所になります。しかし、全国の皆さんをお迎えするのは県内すべての地区のPTA会員で迎えたいという表れでもあります。お茶力ラーのユニフォームを着た当日の出陣挨拶も『参加の方に気持ちよく研修していただき、気持ちよく交流していただくために笑顔

結びに、静岡大会実行委員会は、講師の方々のお話、全国のすばらしい活動事例や取組などの紹介の場を提供したにすぎません。閉会式のお礼の言葉でも述べたとおり、大会の成果は研修に参加するところで終わらず、地元、各学校に持ち帰っていただき、講演の話題、全国の取組事例、会員間の情報交換が伝えられて、子どもたちのために意義あるものになって初めて達成できるものと考えています。是非、皆様により、静岡大会で得たものをご活用いただければ幸いです。ありがとうございました。

「静岡大会は成功したね」の一言で報われる

静岡大会実行委員会事務局長 滝井 徹

36年程度に一度の本県開催、この機会を任せていただき、幸せ者と思えたのは大会終了後のこと。率先し笑顔で対応ができたのか、心からおもてなしができたのかという不安は残る。

この巡り合わせに大会実行委員会事務局長の役割を仰せつかり、不安のルツボと化した。

入局10日目にして福井大会事務局を訪問し、抱える程の資料を頂戴した。静岡大会に向けたスタートでもあった。

2年6ヶ月が経過した今、無事終了できたことを至福の機会として噛みしめている。

携わった計り知れないスタッフ等が、それぞれの持ち場、立場で大会を支えてくれたお陰であり心底から感謝している。また、大会を通して人間力を見ることもできた。やれば出来るという生徒に教えてきた教訓を、この歳になって味わうこと

も出来た。さらに、限界はないという域も少しだけ味わうことができた。

3年前、教員生活が終わりに近づいた頃、今までの恩返しができないかと第2の人生について考えている中、静岡県高P

連事務局勤務のお話しをいただいた。教員一筋の私に何ができるのだろうか

かと迷っていた中、県高P連前会長（杉浦実行委員長）が勤務地に足を運んでくださり、熱い思いが伝わり気持ちが少しずつ傾いていった。

3年後に全国大会があることなど微塵もなく、引継ぎのとき前事務局長から全国大会のことが口から出なかったのは私の不安を見抜いての最大の配慮であつたのか。

1年目の秋、次年度の東海地区高P連事務局の業務を控え、静岡大会準備会から発展した準備委員会の定期開催を控え、2年目からは静岡大会実行委員会事務局の業務に

専念する環境をつくつていただいた。

在職中に第58回愛知大会、第60回東京大会、第63回山口大会へ参加する機会を得たものの主催サイドの世界は全く知らない。

焦燥感に駆られる日々が続いた。そんな時、全国大会ガイドラインの存在を知り、インプットしようとしても経験知のなさから頭の中に入っていない。福井大会の運営マニュアル、進行台本等資料を読み漁っても一向に浸透していかない。不安を払拭するため何度も福井県高P連事務局に電話を入れ、質問を繰り返した。その後、岩手県高P連事務局、千葉県高P連事務局に電話を入れ、繰り返し回答を求めた。

3年目の6月、静岡大会実行委員会設立総会の開催を機に、県内各校から質問攻勢を受け、聞かれる立場になつてこのことを理解し少しずつ大会

の姿が見えてくるようになった。しかし、社会状況や開催地条件等が異なる過去大会をそのまま生かすことはできない。

全国ガイドラインに則り、1万人開催会場の確保、参加者の利便性を最優先しJR東海道本線沿いに各会場の確保、主要駅から会場間のシャトルバスの確保、JR臨時便の確定など、心の支えが少しずつでき苦情にも耐えられることができるようになった。また、協力業者の㈱SBSプロモーション、近畿日本ツーリスト㈱の担当者がいてくれたことが心の拠り所につながった。

全国大会の開催内容が開催地（主管）に殆ど任されていることも知るようになったが、今後開催される佐賀・京都・島根の大会関係者の気苦労が少しでも減少するよう、今年度開催された全国大会見直しのための全国大会検討委員会の成果が反映されるようにしたい。近々の大会から参加規模の縮小、日程はPM開始、翌日AM終了の形になることが予想される。真夏

の弁当1万食配布がなくなるだけでも負担は大幅に減る。新ガイドラインは主管側に利用しやすい資料でありたい。今後は、大会業務記録を全国高P連事務局に集積し、運営に係る資料が何時でも誰でも利用できる機構整備を望む。主管の業務分担を明確にし、全国高P連理事会・総会に諮るべき案件を時系列に示してほしい。全国高P連大会が

継続発展していくため、開催地（主管）が安心して引き受ける体制を早急に進めてほしい。私は、この貴重な経験を第3の人生に還元できるようにしたい。「静岡大会は成功したね」の一言で報われる。大会経験を生かし、更なる単位PTA活動の活性化を期待したい。皆様、ありがとうございます。



地区大会報告

北海道

地区

空知大会

◆『身近な人と結ぶ信頼の絆』

母なる大河石狩の流れる空知野から育ち、
未来の主八公である子どもたちへの熱い想い

日の二日間に渡り、北海道のほぼ中央部に位置する滝川市で「身近な人と結ぶ信頼の絆」をテーマに開催されました。

第67回北海道高等学校PTA連合会大会（空知大会）が、6月10日・11

開会式では、大会に先立ち行われた総会において選出された新井田新会長が新体制により活動の一層の充実に向けて新たな課題に積極的に取り組んで行く意欲を語り、山木大会実行委員長（空知支部長）の力強い開始宣言で大会の幕を開けまし



引き続き、PTA連合会活動に貢献していただいた団体や個人の方々に対する表彰及び感謝状贈呈式が行われ、1団体、

特別功績者を含む21名の功績者に表彰、92名の方に感謝状が贈呈されました。

続いて全体会のメインとなる講演が、（株）アイズブレイク代表取締役中村信人氏により「めぐりあいのふしぎ」と題して行われました。中村氏は、営業プロデューサーとして多くの著作を有し活躍される一方、道内のラジオ局においてパーソナリティー番組を持たれており、聴取者を魅了する巧みな話術と身近な話題に参加者も引き込まれ、日常の生活と生き方

を少し見直す良い機会となりました。

二日目は、滝川市内の高等学校に会場を移し、合計35分科会場毎に、PTA活動のあり方、推進方法、学校・地域・家庭との関わり、生徒の健全育成、進路対策等多岐にわたるテーマで発表やと活発な討論が行われました。これらの分科会の内容については、後日大会集録としてとりまとめる予定です。



ほぼ全域から229校1,068名の参加者が集まり、今後活動を進める上での有意義な充実した二日間となり、大きな成功を収めることができました。

東北

地区

盛岡大会

◆『描け ドリームマップ』

く世界への架け橋を郷土から



第66回東北地区高等学校PTA連合会盛岡大会は7月6日（木）・7日（金）、盛岡市民文化ホールをメイン会場として、東北各地から約1,500名の参加のもと、『描け ドリームマップ』『世界への架け橋を郷土から』をテ

マに開催されました。7日の大会では盛岡第一高校の放送部による、彫刻家 舟越保武氏の詩の朗読で開会行事が始まり、工藤優子実行委員長の開会宣言、渡辺正和大会会長と全国高P連木戸浩久専務理事の挨拶、岩手県知事・盛岡市長から

の祝辞がありました。表彰式ではPTA活動に功績のあった49名の方に表彰状・感謝状、そして広報紙コンクールに入賞した16校に表彰状が贈られました。さらに今年度の東北地区役員紹介がありました。



続いて研究協議が行われ、6県の代表からの事例発表、質疑・意見交換が行われた後、岩手県生涯学習推進センター参与の新妻二男氏から「学校と地域が双方方向の関係をいかに築くか、PTA

がつながる存在であることに留め、活動してほしい。」



との助言をいただきました。昼の休憩時間には盛岡第二高校の吹奏楽部による迫力ある演奏と踊りを

観賞しました。午後の部ではSGH指定校の盛岡第一高校による今までの研究成果の発表に続いて「平泉の浄土

思想と世界遺産登録」と題して平泉・毛越寺貫主の藤里明久氏の記念講演がありました。平泉文化の歴史、世界遺産登録に

関わるお話をいただきました。その後花巻農業高校の鹿踊りの勇壮な演舞、盛岡第四高校の音楽部によ

る素晴らしい合唱があり、参加者の皆さんを魅了していました。閉会行事では、次期開催県の福島県から挨拶が

あり来年の郡山大会での再会を誓いました。最後に工藤実行委員長の閉会宣言で締めくくり無事に幕を閉じました。

関東

地区

神奈川大会

「心ふれあうしなやかな人づくり」

～学び行動するPTA～



4421人の参加者を迎え、「心ふれあうしなやかな人づくり」をテーマに開催されました。

前日に開催された関東地区高等学校PTA連合会総会では各議案が承認され、次期開催県連代表・金田淳氏より挨拶がありました。

7月7日(金)は、全休会に先立ち、湘南台高等学校(マーチングバンド)、金沢総合高等学校(チアダンス)、横浜南陵高等学校(司会・手話ソング)の生徒によるアトラクションで歓迎の色彩

も一層増しました。

開会式では主催者挨拶として関東地区高等学校PTA連合会大石幸和会長が、国際文化都市・横浜への歓迎の意を表するとともに、青少年が抱える多くの課題を提起し、



家庭・学校・地域社会が連携を深め、青少年の健全育成を推し進めることにより、自己肯定感の醸成を願い、PTAの効果的な活動について研究・協議していただきたいと挨拶を述べました。

この後、黒岩県知事、小野寺県議会副議長、桐谷教育長の来賓祝辞に引き続き、PTA連合会活動に貢献していただいた団体や個人に対する表彰並びに感謝状の贈呈が行われました。

続いて、全体会のメインとなる記念講演が「聞くことから、話すことから」をテーマに、フリーアナウンサーの羽鳥慎一氏と石川みゆき氏との対談形式によるトークショーが

行われました。「高校生など若者と話しをするときも、相手と同じ視点に立って、相手のことを中心に考えるのが良いのでは」などのアドバイスを含め、終始なごやかな進行でした。また、会場口ビーでは神奈川県にゆか



りの深いお土産の販売も行われ、活況を呈していました。二日目の8日(土)は6つの分科会に分かれ、それぞれのテーマに沿った発表やパネルディスカッションが行われ、有意義な研究がなされ、どの参加者も満足した表情が見て取れました。参加者は来年の栃木県・鬼怒川での再会を約束して会場を後にしました。

実行委員会スタッフ一同、「笑顔でおもてなし」を合言葉に、一つひとつ手作りの丁寧さが随所に反映されていました。

東京

地区

東京大会

「話・輪・和」

～最高のチーム作りへ～

今回の大会は趣向を変えて、一人の講師から基

調講演をいただく形式から、3人の講師をお招き

してのシンポジウムの形式にしてみました。テ

マは「食が繋ぐ、健康と美」です。1つのテーマで三者の立場から、様々な意見や見解を聞くことにより、相乗効果を生みま

健康と美の為に、①食物を生産する農業を営む立場から、②栄養摂取の観点で管理栄養士の立場から、③体づくりのプロである元プロ野球選手の

立場から、話を聞くことができました。武蔵村山市で農業を営む下田智道さんは「安心安全は当たり前、お客様の声を直接聞くことから、

東海

地区

三重大会

◆

開会式では、細渕修会長のあいさつに続き、全

国高P連の牧田和樹副会長、三重県教育長（次長

の代読）、三重県校長協会の会長が激励・連帯のあい

さつを行いました。

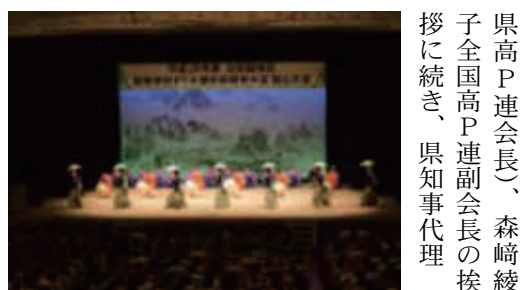
講演は、全国で講演活動を行っているクロフネカンパニーの中村文昭様が「でっかい子育て人育て」と題して行いました。

中村様は、「親の使う否定の言葉が、子どもの可能性を奪っている」「親が子どもの可能性を信じ、応援にまわってくれたら、子どもは何でも話し、ど

んどん伸びる」と語り、「学力と同じように、人間力が大切だ」と訴えました。参加者からは「子どもがもっと小さい時にこの話を聞きたかった」等の感



平成29年度北信越地区高等学校PTA連合会研究大会富山大会が、梅雨の中休みで天候に恵まれた中、7月7日（金）、8日（土）の二日間に行われ、富山県民会館をメイン会場に、「未来を担う人づくり」未来のために行動する「一人」を育てよう」をテーマに開催されました。



北信越高P連会長（富山県高P連会長）、森崎綾子全国高P連副会長の挨拶に続き、県知事代理山崎康至副知事、富山市長代理 酒井敏行市教育委員会事務局長よりご祝辞をいただいた後、PTA活動に功績のあった31名の表彰がありました。続く歓迎アトラクションでは、南砺平高校郷土芸能部が越中五箇山民謡「こきりこ」「五箇山追分」「麦屋節」3曲の唄と踊りを披露しました。分科会では、4分科会で合計20の実践事例が報告され、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

二日目の記念講演は、富山県出身の女優、室井滋氏を講師に迎え、「いろいろありますが個性を伸ばすとは……」の演題で、北日本放送ラジオパーソナリティー 鍋田恭子氏を聞き手として行われました。



北信越

地区

富山大会

◆ 未来を担う人づくり

未来のために行動する「二人」を育てよう

より良い商品作りへ繋ぐ楽しみ」、管理栄養士の黒田光弘さんは「個々の生活や嗜好にあった食事

のアドバイスの大切さ」、元プロ野球選手

の愛甲猛さんは「プロ野球選手だった頃、食事に注意してきたこと」などを話して

ていくことができるのではないのでしょうか。そしてPTA事例発表では、東京都立板橋高校PTA会長の金城のり子さんが「家庭教育とPTA」をテーマに、板橋高校の取り組みや、学校・PTA・家庭で子供を育てることの大切さなどを

発表してくれました。そして本大会において初めてづくしの最大のものが、各学校力のこもった広報誌の「広報誌コンクール表彰式」です。各賞は事前に決定していましたが、当日会場に足を運んでくれた参加者に、広報誌の表紙で票を投じ



てもらい決める「特別賞（表紙が良かったで賞）」を新たに設置しました。受賞された皆さんも逃した皆さんも、明るい笑顔が印象的でした。

富山県出身の女優、室井滋氏を講師に迎え、「いろいろありますが個性を伸ばすとは……」の演題で、北日本放送ラジオパーソナリティー 鍋田恭子氏を聞き手として行われました。

富山県出身の女優、室井滋氏を講師に迎え、「いろいろありますが個性を伸ばすとは……」の演題で、北日本放送ラジオパーソナリティー 鍋田恭子氏を聞き手として行われました。

富山県出身の女優、室井滋氏を講師に迎え、「いろいろありますが個性を伸ばすとは……」の演題で、北日本放送ラジオパーソナリティー 鍋田恭子氏を聞き手として行われました。



中国・四国
地区

山口大会

◆ 育て、生きる力！PTAは子ども達の応援団

ー 今、変革の時。さらに一歩踏み出そう！

開催地下関は、響灘

(日本海)、瀬戸内海、関

門海峡と三方を海に囲ま



第43回近畿地区高等学校PTA連合会大会滋賀大会が、7月1日(土)、

近畿

地区

滋賀大会

◆ つながり・夢・未来

滋賀県立文化産業交流会館・米原市米原公民館において「つながり・夢・未来」をテーマに開催されました。

前日6月30日(金)に開催された近畿地区高P連総会では、各議案が承認され、兵庫県公立高等学校PTA連合会の玉田圭司会長が新たに近畿地区高P連会長に就任し、次期大会開催県は兵庫県になりました。

大会当日7月1日(土)

は生憎の空模様となりましたが、近畿各地より約2,200名の参加を得て大会開催を迎えました。今滋賀大会は、「滋賀らしいおもてなし」を念頭に掲げており、「レイクリードの二人による「よし笛」演奏とご当地ゆるキャラで歓迎しました。

開会式では、森野真大会会長、森崎綾子全高P連副会長のあいさつに続き、池永肇恵滋賀県副知事、平尾道雄米原市長よ



想が聞かれました。

研究協議では、岐阜県立中津高等学校PTAが「進路指導とPTA」の分野で「PTAと学校でつくる保護者のための進路サポート」を知っていますか、昨今の大学事情」と題して、保護者のための進路サポート勉強会の

取組を中心に発表しました。次いで、愛知県立春日井工業高等学校PTAが「生徒指導とPTA」の分野で「びたりぎゅつと春工PTA活動」と題して、「自転車運転免許」取得の取組を中心に発表しました。

閉会式前には、全国高



りご祝辞をいただき、その後、近畿地区広報紙コンクール入賞校10校の表彰があり、本年3月末をもって退任された各府県市長・事務局長に感謝状と記念品が贈られました。

記念講演では、2011年、ドイツで行われた

P連大会「静岡大会」の実行委員長が登壇し、東海地区の代表として全国大会を開催することの意気込みを語り、多数の参加を呼びかけました。

れた本州の最西端の地であり、また源平の合戦や高杉晋作による奇兵隊の挙兵(来年は明治維新150年)など、日本の



FIFA女子ワールドカップで日本を優勝に導いた、びわこ成蹊スポーツ大学特別招聘教授・サツカー日本女子代表前監督の佐々木則夫氏を講師に迎えました。「未来に向けてチャレンジ」5つの提言」と題する講演では、今大会のテーマ「つながり・夢・未来」に向けてのいくつものヒントを与えていただき、大変有意義なものとなりました。

その後、特別分科会として、滋賀県立水口東中学校・高等学校の「学校を側面から支えるPTA活動」と題する取り組み事例発表がありました。地域の特性を生かした取り組みが紹介され、様々な示唆にあふれた発表でした。

閉会式では、滋賀大会の大会宣言が決議され、その後の次期開催県挨拶では、兵庫県から開催に向けてのたいなる意気込みが示され、大会は幕を閉じました。

会場ロビーでは県内農業高校の実習生産物等の販売も行われ、大盛況でした。参加者は、来年、神戸市での再会を約束して帰路につきました。

歴史の変換点の舞台ともなった地でもある。大会は山口県副知事、下関市長をはじめ多くの来賓をお迎えし、下関市出身の

ソプラノ歌手野々村彩乃さん(2010年選抜高校野球大会で高校生として国家独唱が有名)の国家独唱で始まった。そし

大会は熊本地震により当初の会場が使用できなくなり、日程と会場を変更して開催されました。



九州

地区

熊本大会

はぐくもう おもやいの精神 (しんしん)

新しい時代を生き抜く力

午前中の分科会は、第1分科会と第2分科会の主眼である青少年の健全育成と進路指導について、それぞれ4単位PTAによる意欲的な取組みの事例発表がおこなわれました。また、第3分科会は熊本地震を教訓に「防災教育とPTA活動」として、熊本城内に校舎がある県立第一高校生徒による「熊本地震に関する研究発表」、続いて鳥取県中部地震に熊本県教育委員会から派遣された熊本

県立教育センター大塚芳生主幹の基調講演、地域避難所となった高校などにおいて様々な立場から被災者支援に取り組んだ皆さんによるパネルディスカッションが行われました。参加者の関心も高く、熱気のある分科会となりました。

アトラクションは県立済々黌高校の平根鈴華さんによる吟詠「西南の役陣中の作」、続いて県立牛深高校郷土芸能部による「牛深ハイヤ節」が披露さ

講演は、熊本県出身の姜尚中氏により『若者の人生儀礼』と題しておこなわれました。「青年期は、人生の中で最も多感な時期であり、潜在的な能力に満ちている。しか



し、一方で危うい時代でもある。人間は長い人生の中で様々な人生儀礼を通して大人になる。例えて言えば谷に渡された丸太の上を歩くようであり、それらを経験することで人生のステージが上がり、大人になっていく。青年期には、乗り越えるべき目標となるモデルが必要であり、親や教師の役割は大きい。」と独特の語り



口で話していただき、多くの参加者が感銘を受けた講演だったと思います。

閉会式では、「九州は一つ」を確認しあい、大きな感動の中で九高P連旗が熊本大会会長の川部会長から次期開催県、沖縄県連の仲西会長に引き継がれました。来年、沖縄で会いましょう。

て大会実行委員長の板谷正(山口県公立高等学校PTA連合会会長)の開



会挨拶、1,600名を超える参加者の熱気とともに盛り上がりつつあった。

講演の講師は、文部科学省初等中等教育局財務課長の伊藤学司氏(前長野県教育委員会教育長、文部科学省生涯学習政策局元社会教育課長)が『これからの高校教育とPTAの役割』と題し、

1. これからの社会
2. 日本の高校生の現状
3. 学習指導要領改訂の方向性
4. 高



大接続改革 5. 学校を取り巻く環境について説明、最後にこれからのPTA活動について、新たな役割と存在が求められており「PTAは学校に最も身近な社会」である」とまとめられた。講演後

使用された資料について要望が多く寄せられ、各県連を通して配布することとなった。午後は、アトラクションとして、先帝祭(源平の合戦で壇ノ浦に入水された安徳帝をお慰める神事)の時に執り行われる「海峡上臈絵巻」(上臈参拝)、県内の者でも間近に見ることはなかなか難しく、参加者の目を奪った。

研究発表は、それぞれの学校が置かれている

実状からの特色あるPTA活動の報告で、島根県立矢上高等学校PTA会長大屋光宏氏による「高校存続と魅力化」、香川県立高瀬高等学校PTA副会長矢野智昭氏による「学校と繋がり、子どもと繋がる」の2本と、山口県公立高等学校PTA連合会長板谷正が山口県高P連の活動について作成した「山口県高P連アクションプランROAD TO 2020」を下敷きに取組み

を説明し、これからの高P連活動の方向性を提案した内容であった。



平成29年度

定時総会報告

6月24日、ホテル東京ガーデンパレスにおいて、平成29年度定時総会が開催された。

来賓として、文部科学省大臣官房審議官 生涯学習政策局担当・神山修氏、日本PTA全国協議会会長・東川勝哉氏を迎えし、ご祝辞をいただいた。

第1号・第2号議案
平成28年度事業報告・決算報告、第3号議案 平



成29年度役員選任、第4号議案 会長・副会長・専務理事・常務理事の選任及び会長選出地区補充理事の選任、以上全ての議事が可決承認された。

なお、総会終了後、報告事項として、昨年一年間にわたって健全育成委員会を中心に全国の都道府県市高P連から意見集約を行ってきた結果をとりまとめた、全国大会静岡大会における「バイクの3ない運動」に関する宣言文の取扱いについての報告があった。

また、平成28年熊本地震義援金（最終分）と東日本大震災義援金（第9次分）が熊本県高P連・佐藤弘一会長と福島県高P連・矢部浩樹会長に寄託された。

会の最後に文部科学省生涯学習局社会教育課吉谷正氏から「改正個人情報保護法への対応について」の情報提供があった。

平成29年8月 全国大会静岡大会における宣言文

自転車・バイク・歩行者の

マナーアップ運動について

現在、交通事故によって多くの子どもたちの「大切な命」が失われています。

そのため本会では、子どもたちが交通事故の「被害者にならない、加害者にさせない」ことを目的に、地域社会と共に具体的な交通安全指導を推進する必要があると考え、「自転車・バイク・

歩行者のマナーアップ運動」を各機関・団体等と連携・協力して、交通安全教育の充実のために効果的な活動を推進していきます。

さらに本会では高校生がもしも交通事故等の加害者になったときの経済的負担を補償するため「全国高P連賠償責任補償制度」を運営しています。

今後の

『バイクの3ない運動』の展開について



全国高等学校PTA連合会では、昭和57年より「バイクの3ない運動（免許は取らない・乗らない・買わない）」を通して、35年にわたり子供たちの「大切な命」を守り続け大きな成果をあげてきましたが、今後については地域の実情や昨今の社会情勢の変化に鑑み、各都道府県市高等学校PTA連合会がそれぞれの立場で、「バイクの3ない運動」を独自に展開することとします。

一般社団法人全国高等学校PTA連合会 会員概況

平成29年9月1日現在

	会員団体数 ＝連合会数	各団体加盟状況		賠償責任補償制度加入状況	
		学校数	生徒数（人）	学校数	生徒数（人）
北海道地区連合会	1道	278	108,869	122	41,894
東北地区連合会	6県	458	188,227	287	125,703
関東地区連合会	7県	775	520,178	448	339,304
東京地区連合会	1都	74	52,386	22	15,604
北信越地区連合会	5県	324	171,160	117	60,696
東海地区連合会	4県	499	302,848	312	191,736
近畿地区連合会	2府4県3市	529	352,872	367	256,849
中四国地区連合会	9県	517	242,409	283	145,380
九州地区連合会	8県	587	290,887	226	117,915
合計	50団体	4,041	2,229,836	2,184	1,295,081

平成29年度 一般社団法人全国高等学校PTA連合会役員・委員会名簿

役職名	氏名	担当	推薦区分	県名	備考
会長（代表理事）	牧田 和樹	総務委員	北 信 越	富 山	
副会長	森崎 綾子	総務委員	理 事 会	京都府	
副会長	泉 満	総務委員	理 事 会	香 川	
専務理事（業務執行理事）	木戸 浩久	総務委員長・賠償責任補償制度運営委員長	理 事 会	大 分	
常務理事（業務執行理事）	内田志づ子	総務委員	全国高等学校長協会		事務局長
理 事	大石 幸和	調査広報委員長	理 事 会	神奈川	
理 事	新井田 寛	健全育成委員長	北 海 道	北海道	
理 事	渡辺 正和	進路対策委員長	東 北	岩 手	
理 事	金田 淳		関 東	栃 木	
理 事	池本 義信	研修委員長	東 京	東 京	
理 事	石坂 兼人		北 信 越	富 山	
理 事	細渕 修		東 海	三 重	
理 事	玉田 圭司		近 畿	兵 庫	
理 事	板谷 正		中 国 四 国	山 口	
理 事	仲谷 春雅		九 州	沖 縄	
代表監事	坂井 正人		理 事 会	新 潟	任期継続2年目
監 事	北村 正次		中 国 四 国	広 島	任期継続2年目
顧 問	佐野 元彦		前 会長		
相談役	相川 順子		元 会長		
相談役	金井 修		元 副会長		
相談役	小栗 洋		全国高等学校長協会事務局長		

総務委員会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・専務理事	大 分	木戸 浩久
会 長	富 山	牧田 和樹
副会長	京都府	森崎 綾子
副会長	香 川	泉 満
常務理事	事務局	内田志づ子

健全育成委員会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	北海道	新井田 寛
委 員	山 形	結城 昌明
委 員	埼 玉	小澤 拓
委 員	東 京	高田 教子
委 員	新 潟	川上 克
委 員	愛 知	林 早希
委 員	奈 良	真中 章乃
委 員	山 口	板谷 正
委 員	鹿児島	川原 慎一

進路対策委員会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	岩 手	渡辺 正和
委 員	北海道	永渕 優
委 員	福 島	矢部 浩樹
委 員	群 馬	中野 秀人
委 員	東 京	西藤 義則
委 員	長 野	常田 新司
委 員	岐 阜	早川 徹
委 員	大阪府	武田 保和
委 員	岡 山	市川 始
委 員	長 崎	石本仁太郎

調査広報委員会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	神奈川	大石 幸和
委 員	北海道	山本 美加
委 員	秋 田	石嶋勝比古
委 員	茨 城	鷺田 美加
委 員	東 京	木村 豊行
委 員	福 井	宮谷 正志
委 員	三 重	細渕 修
委 員	滋 賀	北川 健二
委 員	愛 媛	沖 秀和
委 員	大 分	和田 俊二

研修委員会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	東 京	池本 義信
委 員	北海道	福井 玲子
委 員	青 森	若宮 佳一
委 員	山 梨	植村 武彦
委 員	石 川	岡田 諭
委 員	静 岡	小山 全司
委 員	京都府	奥野 貴史
委 員	鳥 取	中井太一郎
委 員	佐 賀	山本 雅之

賠償責任補償制度運営委員会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・専務理事	専務理事	木戸 浩久
委 員	北海道	井村 美彦
委 員	岩 手	高橋 秀幸
委 員	埼 玉	木田 一彦
委 員	東 京	芦沢貴美枝
委 員	長 野	本郷 幸博
委 員	三 重	水野 恵宏
委 員	奈 良	梶本 修
委 員	山 口	久芳 善人
委 員	熊 本	小林 博

全国高等学校 PTA 連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？ 全国加盟高校の2校に1校が加入しています。

掛金

生徒1名あたり **年間400円** (保険料391円+制度維持費9円)

※補償開始日が平成30年4月1日の場合、補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

補償期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日

補償の範囲と支払済高額事故事例

＜生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります＞



補償の範囲	補償限度額	事故発生 件数割合
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 ^(注) 1事故1億円 自己負担額1事故5千円 (注) 対人事故・対物事故合算して1億円が限度となります。	99%超
2. PTA活動の遂行に起因する賠償責任 (PTAの賠償責任保険)	対人 1名5千万円・1事故5億円	1%未満
	対物 1事故5千万円 自己負担額1事故1千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物 加害者1名 10万円 保険期間中 500万円 自己負担額1事故5千円	

年度	支払金額(千円)	事故内容
19年度	87,915	無灯火の 自転車 で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。 【過去最高支払金額】
24年度	40,206	自転車 で歩行者と衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。
24年度	20,040	ゴルフの練習中にゴルフクラブが友人の左目にあたり失明。
26年度	23,602	自転車 で歩行者に後ろから衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向がありますが、**自転車事故に限らず国内における事故を24時間、幅広く補償しております**☆

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会
東京都千代田区神田佐久間町 2-1
奥田ビル 301号
TEL.03-5835-5711

●引受保険会社

引受幹事保険会社 東京海上日動火災保険株式会社 TEL.03-3515-4133
(担当：公務第二部 文教公務室)
共同引受保険会社 AIU損害保険株式会社 TEL.03-6848-8480
三井住友海上火災保険株式会社 TEL.03-3259-4061
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 TEL.03-3349-9588

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会 後援

AIU 高校生国際交流プログラム
(参加費無料)
<http://www.highschooldiplomats.org/>

「育てたいのは、
子どもたちの未来。」

私たちは、AIU 高校生国際交流プログラムを協賛しています。

AIU損害保険株式会社
tel: 03-3216-6611 www.aiu.co.jp

AIU
Member of AIG

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

**三井住友海上の
安心**

GK

クルマの保険
住まいの保険
ケガの保険

www.ms-ins.com

地球の未来にできること。
マングロープ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。

東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1
〒100-8050
<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

SOMPO
ホールディングス
保険の先へ、挑む。

損保ジャパン日本興亜

損保ジャパン日本興亜は
SOMPOホールディングスの一員です。
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL. 03-3349-3111
〈公式サイト〉 <http://www.sjnk.co.jp/>



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。